令和２年度　奨学後援会新年度役員会資料

学校の概況（令和元年度）

令和２年５月７日

広島商船高等専門学校

目　　　次

学校の現況（校長　辻　啓介）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

学生教育（教務主事　吉田　哲哉）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　1．主な取り組み
　2．学校の現状
学生支援（学生主事　大和田　寛）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　1．就学支援・入学金や授業料免除，各種奨学金制度について
　2．学生会活動支援
　3．課外活動支援
　4．交通安全指導
学寮生活（寮務主事　小林　豪）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　1．寮生数と再入寮制度について
　2．寮の現状
広報活動（広報主事　大山　博史）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　1．令和元年度の主な取組
　2．入学生の状況、情報の共有
　3．今年度の取組
進路指導―商船学科―（商船学科就職担当　茶園　敏文，水井　真治）・・・・・6
　1．進路概要
　2．求人・求職の傾向
　3．進路指導
進路指導―電子制御工学科―（電子制御工学科　就職担当　成清　勝博）・・・・7
　1．進路の概況
　2．進路状況
進路指導―流通情報工学科―（流通情報工学科　進路指導担当　加藤　博明）・・8
　1．進路指導（学科の取り組み）
　2．進路の概況

学校の現況

校長　辻　啓介

保護者の皆様には，平素より本校の教育活動にご理解とご協力を頂き，厚く御礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染防止のために，来賓等の出席をご遠慮していただき，本科卒業生および専攻科修了生と保護者の方々のみのご臨席で卒業式を行いました。その後も，ウイルスの脅威は収まる気配はなく，新学期が始まっても，入学式や始業式を中止せざるを得なくなったことは誠に残念でなりません。これは，本校が日本全国から学生が集まっており，その多くが寮という限られた空間で共同生活する環境にあり，学生および教職員が感染しないため，また感染源にならないための苦渋の決断です。ご理解を頂けますようにお願いいたします。

学生の声がないキャンパスは非常に寂しく感じるところですが，教職員は「すでに新学期は始まっている」との考えから，インターネットを利用した遠隔授業の準備を行い，５月連休前に試行段階を終えて，連休明けから本格的運用を行います。学生たちの回答から，慣れない WEB 授業に積極的に取り組んでいる様子が覗え，嬉しく感じております。４月から実施している毎朝の検温や行動の報告もまじめに届けてくれていますし，高専の本来の目的である「自ら学ぶ」精神を大いに発揮してくれていると信じております。学校としては，学生の学ぶ権利を奪われないように，また，学生にとって不利益にならないように全力で努力していきますので，ご協力をよろしくお願いいたします。

商船学科の卒業要件である海技教育機構の練習船実習についても，乗船実習が延期されている状況で，特別警戒宣言の中，乗船日が定まらない状況です。何らかの措置をとっていただけるように海技教育機構を通じて国土交通省，高専機構本部を通じて文部科学省に要望をしているところです。特に実習生（商船学科６年）には９月卒業と海技免許取得ができるように要望を続けております。

「嵐の後には必ず晴天が来る」の言葉の通り，今は大変ですが必ず社会が平常に戻るときが来ます。その時を楽しみにして，被害を可能な限り最小になるように，一刻も早く平常に戻るように，努力して頑張らなければならない時です。一日でも早く，平常の学校生活を迎えるために，ひとりひとりが現状を正しく認識し，自覚ある行動をとることが必要です。一致団結して，この状況を一刻も早く乗りきれるように頑張ります。保護者の皆様にもご協力をよろしくお願い致します。

学生教育

教務主事　吉田　哲哉

１．主な取り組み

(1)SHR：朝のSHR（朝8：35～8：50）を実施して3年経ちました。遅刻・欠席の防止，伝達事項を含め担任とのコミュニケーションの場として，さらには短くてもいいので，何かの勉強（読書や英語）の時間になればと思っています。

(2) 教室の環境づくり：放課後の教室の掃除・整理整頓等の取り組みです。教務主事補の教員を各階に配置して，担任だけでなく学校全体で取り組んでいます。「教職員(の取り組み)が変われば学生が変わる。学生(の取り組み)が変われば学校が変わる」の思いです。

(3) MCCの導入：MCCとはModel Core Curriculum（モデルコアカリキュラム）の略称です。平成30年度より全国の高専においてMCCに基づいて授業のシラバスを作成し，教育の質保証に向けた取り組みを開始しています。

(4) CBTの導入：CBTはComputer Based Testingの略称で，MCCに基づいた教育によって学生に力がついていることを証明するためのテストです。昨年度は，一般教科の数学，物理，化学と電子制御工学科の電気電子で実施しました。

２．学校の現状

(1)遅刻と欠席：SHRの取り組みを始めたものの，まだまだ遅刻や欠席が多い学生が見受けられます。100欠席時数以上（年間約2週間、公欠は除く）の学生が，1年生に4人，2年生に14人，3年生に14人，さらに4年生に2人，5年生に3人，合計で37人もいます。ただ，授業をほとんど休まない学生もたくさんいます。

(2)留年と退学：図1に，ここ10年間の留年率と退学率の推移を示します。令和元年度は，前年度に比べ留年率は下がりました。図2に，令和元年度の学科・学年別の留年者数（休学・退学者数を除く）を示します。合計で7人の学生が進級できませんでした。退学者は20人（内10人は3年生）で，少し増加傾向にあります。何とかして，こうした状況を打破しなければならないと思っております。

(3)ご協力のお願い：学校としましては，授業の改善はもちろんのこと，担任・学生指導関係・学寮・学生相談室等とさらなる連携をとりながら学生支援を行ってまいりますので，保護者の皆様におかれましても引き続きご協力の程よろしくお願いします。

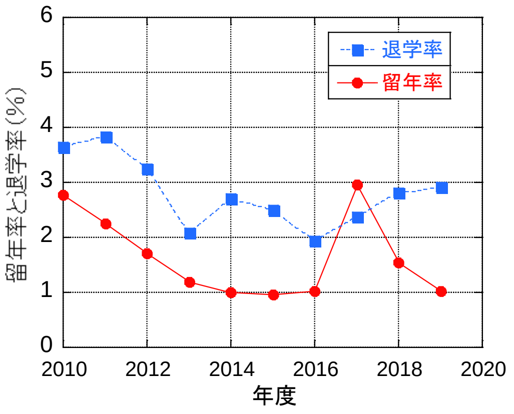


図１　留年率と退学率の推移

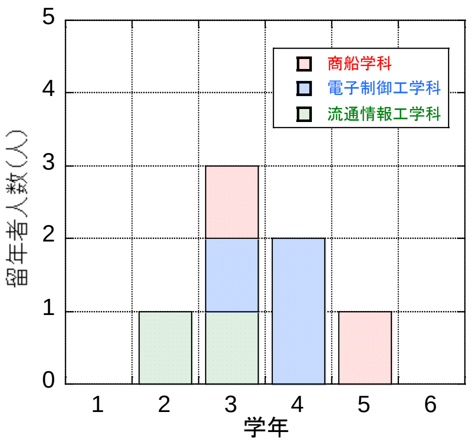


図２　留年者数
（2019年度）

学 生 支 援

学生主事　大和田 寛

奨学後援会の皆様には，課外活動等の様々な活動について多大なるご支援を頂き大変感謝しております。昨年度は新たに高等学校総合体育大会スキー大会へエントリーした学生へもご支援も頂き誠にありがとうございました。

また現在，課外活動を通した学生の人間力向上を目指しつつ，業務や費用負担軽減を図りつつ課外活動に関する改善の議論を進めております。奨学後援会の皆様にもご協力を頂きまして，課外活動をより良いものにしていきたいと存じますので，今後ともご支援いただければ幸いです。学生支援に関して，以下に簡単にご説明いたします。

１。就学支援・入学金や授業料免除，各種奨学金制度について

１年生から 3 年生までの学生に関しては就学支援金制度により授業料の支援を行っています。4 年生以上の学生には授業料免除制度があり，令和元年度は 99 名の就学支援を行いました。また，4 年生以上の授業料免除制度につきましては，今年度から新制度「高等教育の就学支援制度」が開始されます（新制度は，授業料免除＋給付奨学金のセットとなり，従来の授業料免除と置き換わる予定です）

その他，入学金や授業料等の免除，各種奨学金の案内や手続き等については，ホームページや電子掲示板で学生たちに案内しておりますので，申請等する場合は，学生係で必要な書類等を受け取り，期限内に提出するようにお願いいたします（学生係：0846-67-3023）。

２。学生会活動支援

学生たちの自治組織として，学生会があります。会長をはじめとする役員を中心として，商船祭やクラスマッチなどの学校行事に取り組んでいます。昨年度から新たに広報部による定期的な新聞発行を開始し，学校の広報活動をしております。また，学生会自治局による駐輪場指導等，学生自らが学校をより良くする活動に取り組んでいます。

３。課外活動支援

本校では，学生たちの心身の健全な育成のために 17 の体育系のクラブ・同好会，12 の文化系のクラブ・同好会があり，放課後を中心に活動しています。令和元年度は，中国地区高専大会主幹（野球，水泳，バレー，硬式テニス），全国高専大会主幹（陸上競技，水泳），卓球部全国高専大会優勝（６連覇），英語弁論大会（中国地区高専英語弁論大会暗唱部門優勝），プログラミングコンテスト全国大会特別賞等，多くの学生が活躍しました。

４。交通安全指導

朝の登校の際には，通学路や寮前の横断歩道，校門等に立ち，交通安全指導をしています。学生たちの安全を守るため，並列運転や二人乗り，傘挿し運転，一旦停止等の交通規則の順守，自転車の整備状況等について指導をしています。ご家庭におかれましても，雨天時のカッパ着用等の交通ルールにつきまして，ご指導いただければ幸いです。

学寮生活

寮務主事　小林　豪

１．寮生数と再入寮制度について

〇寮生数

平成 31 年 4 月に 95 名の新入寮生（男子 76 名，女子 19 名，編入生 1 名）を迎え入れ，全寮生数は 457 名となりました。

5 月には元号が「平成」から「令和」に移り変わり，令和元年 8 月に商船学科 4 年生を海技教育機構の練習船へ送り出したことによって一時的に寮生数は少なくなりましたが，約 400 名が集団生活を送っています。令和 2 年 4 月には，4 年生後期の実習を終了し，再入寮を希望した新 5 年生と，新入寮生を迎えての寮生活がスタートします。

近年，女子の入寮希望者数が増加している状況にあります。

（表：新入寮生数の推移）

年度	男子	女子	合計
H31	76	19	95
H30	88	15	103
H29	99	17	116
H28	108	14	122
H27	91	16	107

〇再入寮制度

通学圏内中学生数の減少にともない，寮生割合は高くなっています。

本校の入寮期限は 3 年で，その後は再入寮手続きが毎年必要となります。その際，新入生の入寮希望者を優先させるため，学寮の収容人数の超過が予想される場合，生活態度が乱れている場合，公共交通機関を利用しての通学が可能な場合等に，再入寮を許可しないことがあります。これらの対応により，新入寮生の居室数を確保しています。新入寮生数の状況によっては，入寮申請し条件付きで不許可となった寮生に対し，入寮可能の呼びかけをしています。令和元年度においては，抽選により再入寮を不許可となる寮生はいませんでした。

２．寮の現状

〇寮生の状況について

4 月に入寮した 1 年生にも間もなく後輩ができ,親元を離れた寮生活にも慣れてきました。2,3 年生はそれぞれ進級し，先輩らしくなっている姿が見られます。4,5 年生は，資格試験や就職活動，卒業研究等，忙しくしている様子で各自責任を持ち生活しています。

生活指導においては，日々の巡回指導とともに定期的に寮生集会を開催し，集団生活において必要なマナー，寮内での禁止事項，交通マナーやＳＮＳ利用の注意事項等，全寮生に周知・確認を行っています。問題行動は少なくなりましたが，細かい指導はまだ見受けられます。

新年度には，新入寮生とともに在寮生においても寮生活における規則，マナーを再度確認し，落ち着いて生活できる環境創りを引き続き行いたいと考えています。

〇寮の改修工事

近年の，女子寮生の入寮希望者数の増加にともない，これまで男子寮生が使用していた 1 棟（A 棟）1 階の海側 6 室へ 2 段ベッドを配置し，女子寮生（4 年生）が使用する居室とする改修工事を行いました。これにより，女子寮生の定員数を 12 名増やすこととなり，令和 2 年度の女子新入寮生数を 26 人確保しました。

寮の施設は大変古くなってきており，老朽化，設備の入れ替え・充実が今後の重要課題となっています。

広報活動

広報主事　大山　博史

１．令和元年度の主な取組

1年間を通じて次のような主要な活動を行いました。

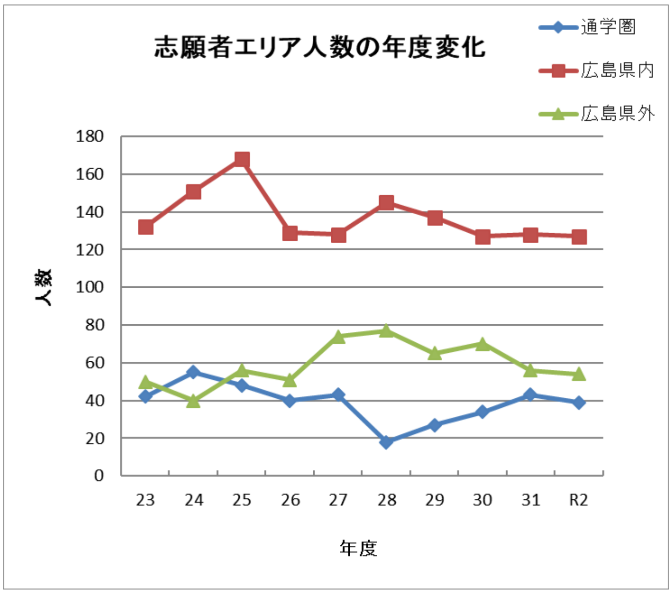
・　4月　大崎上島中学校の宿泊研修（本校若潮会館に宿泊）に協力
・　6月　商船系高専5校合同進学ガイダンス（神戸）に参加
　　　　 国公私立高専合同説明会（東京）に参加
・　7月　進学説明会（広島市）を実施
・　8月　商船系高専5校合同進学ガイダンス（横浜）に参加
　　　　 公開講座　オープンスクール（第1回目）を2日間実施
・　9月　県内中学校からの要望による出前授業や進路説明
　　　　 合同学校説明会（福岡）に参加
　　　　 3高専合同ガイダンス（松江・弓削・広島）
・　10月　オープンスクール（第2回）
　　　　進学塾（田中学習会・明光義塾・ノーベル学習館など）の進学説明会参加
　　　　県内の中学校を訪問（主事・特命教授）

２．入学生の状況，情報の共有

今年の志願者は220名(本校を第一希望もしくは専願者数は196名)でした。昨年度より10名程度減少しましたが，ほぼ志願者数は安定して推移しています。

傾向としましては，県外からの志願者の減少傾向が続いている一方で，通学圏からの志願者は昨年と同程度となっています。日頃の学生の活躍が近隣からも評価していただいていると考えていますが，今後は通学圏での生徒数の減少が見込まれており，より広域での広報活動が必要となります。

商船学科，電子制御工学科の志願者数は昨年と同程度，流通情報工学科の志願者が少し減少しましたが，本校の教育内容等を理解していただいた上での安定した人数と考えています。



今後の広報活動では学生主体の広報活動を前面に打ち出し，学生による学校紹介や女子学生の活躍等について紹介の場を増やしていくつもりです。

３．今年度の取組

（1）中学校（中学校教諭）との連携強化
（2）教育コーディネータの配置(2人)
（3）本校主催の進学ガイダンスを広島で開催予定（6月）
（4）県外でのPR活動強化

進路指導　－商船学科－

商船学科　就職担当　茶園　敏文，水井　真治

１．進路概要

図１に商船学科の過去５年間（平成 28 年度～令和２年度）の進路状況を示します。全体の傾向として，航海コース・機関コースともに平均すると約８割が海上職，約１割が陸上職，残り１割が進学といった状況です。

令和２年９月に卒業予定学生の進路状況（内定状況）を表１に示します。今年度５年生は，約 77%の学生が船員としての海上就職予定となりました。そのうち，外航船員として内定が 12 名，内航船員として内定が 18 名（合計 30 名内定）となっています。

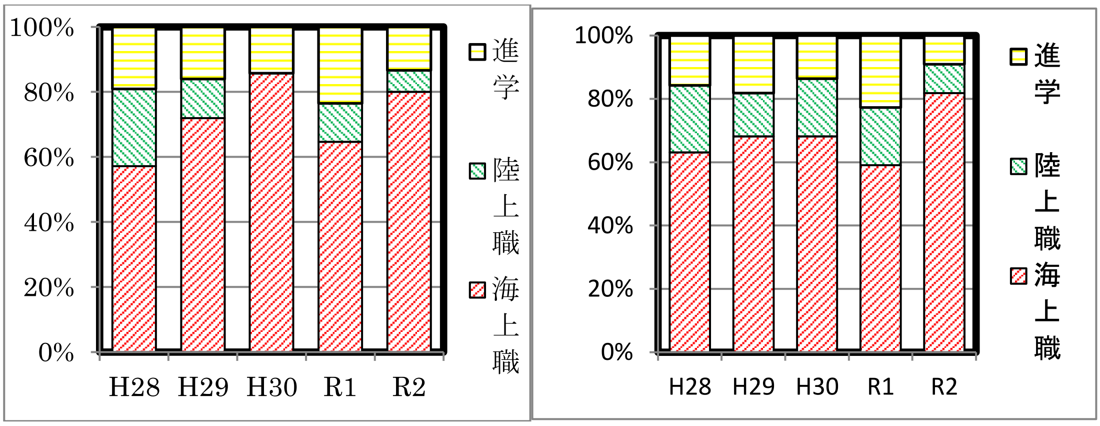


図１　過去５年間の進路状況（左：航海コース，右：機関コース）

表１　令和２年９月卒業予定学生の進路状況

航海コース（17 名）	海上：12 名	陸上：3 名	進学：2 名
機関コース（22 名）	海上：18 名	陸上：2 名	進学：2 名
商船学科（39 名）	海上：77%	陸上：13%	進学：10　%

２．求人・求職の傾向

近年の求人は，外航船社ではもちろんですが内航船社においても２級海技士の筆記試験合格を入社条件としている会社も多いため，よりレベルの高い資質が求められています。

海上職・陸上職ともに，就職に際しては基礎基本の知識を有していることは当然のことながら，社会人としての責任感・協調性・社会性などのコミュニケーション能力が強く求められる傾向にあります。

海上職を目指す学生の場合，外航を志望する学生は毎年一定数いますが，数ヶ月から数週間の短期航海の内航船員を希望する学生もいます。

３．進路指導

（１）低学年に対して：学科長や就職担当者がホームルームの時間を利用して，就職や進学を含めた進路についての指導を行っています。不定期ではありますが，造船所見学や本校練習船の寄港地での港湾施設見学等も取り組んでいます。卒業生の講演等の機会を設定して海事関連の仕事に対する理解を深める取り組みも行っています。

（２）高学年に対して：商船学科では担任と就職担当を中心に，本人の希望・適性・成績等を踏まえ，希望調査・個人面談等を行いながら進路を決定しています。平成 27 年度より２年生終了時の春休みに１カ月，４年生後期に５カ月，海技教育機構での練習船実習が行われています。5 年生は帰校後，直ちに就職活動が開始されます。4・5 月に，多くの企業に来校頂き，会社説明会を頻繁に実施し，学生の進路選択へ役立てています。

進路指導－電子制御工学科－

電子制御工学科　就職担当　成清　勝博

１．進路の概況

令和元年度の求人状況は，求人企業数は約 500 社，述べ求人数は 511 人と非常に恵まれた状況でした。今年度も学生達の努力の結果，卒業生 42 名のうち 8 名が進学し，34 名が就職します。就職先の職種としては，エンジニアとして機械，電気，情報，制御等の専門的な技術の仕事に携わります。

２．進路状況

（１）就職

卒業生の就職先の業種は 62%が製造業で，その職種は工場の生産ラインの設計や保守・管理などになります。また，約 18%がサービス業で，エレベータやエスカレータ，空調設備，OA 機器などのメンテナンスを行います。運輸・通信分野は約 6%です。今年度は，35%の卒業生が県内の企業に就職し，中四国地区の企業に就職する学生を含めると 40%の学生が，中四国地区で活躍します。下表に卒業生の進路先を示しています。

（２）進学

進学の割合は 19%です。

大学への進学者は 3 名，本校専攻科への進学者は 5 名です。

令和元年度卒業生の進路先（電子制御工学科）（R2.3.1 現在）

	内定進路先	人数	内定進路先	人数
就職	JFE スチール西日本製鉄所	1	日東電工	1
	JXTG エネルギー	2	富士ソフト	1
	NS ウエスト	1	フジテック	1
	旭化成	2	富士電機	1
	アルファシステムズ	1	古川製作所	2
	出光興産	1	マイスターエンジニアリング	1
	キャノンメディカルシステムズ	1	マツダ E&T	2
	ジェイペック	1	メタウォーター	1
	新川センサテクノロジ	1	リコージャパン	1
	セトウチ	1	レンゴー	1
	ダイキン工業	2	関西電力	1
	ダイコーテクノ	1	三菱電機プラントエンジニアリング	1
	ディスコ	1	東海旅客鉄道	1
	テラテック	1	日信電子サービス	1
	東芝自動機器システムサービス	1		
進学	豊橋技術科学大学	2	千葉大学	1
	広島商船高等専門学校専攻科	5		

進路指導－流通情報工学科－

流通情報工学科　進路指導担当　加藤　博明

１．進路指導（学科の取り組み）

5 年学級担任が進路指導を担当し，学科全体で連携を取りながら指導にあたっています。就業意識を高める試みとして，1）低学年時からの就職講義の導入，2）4年生全員のインターンシップ参加，3）OB・OG による講演会，4）職業適性試験・基礎能力試験の実施などの多岐にわたる就職支援プログラムを実施しています。また，公務員志望者の学生を応援し受験を突破する実力をつけるため，公務員講座を開催しています。

２．進路の概況

令和元年度の卒業生は 40 名（男子 27 名，女子 13 名）です。このうち，就職希望者は 33 名，進学希望者は 7 名となっています。就職先企業の業種の内訳については，情報通信業が 43%，物流業が 36%，製造業が 12%，その他 サービス業，医療福祉などが続きます（図１）。今年度は，関東地方が 49%，関西地方が 15%，そして，33%の卒業生が広島県を含む中国地方の企業に就職しています（図２）。関東地方に行く卒業生は情報通信業が多い傾向にはありますが，最初の数年の研修後には広島を中心として中国地方に配属されるケースも多いようです。表 1 に卒業生の進路一覧を示しています。

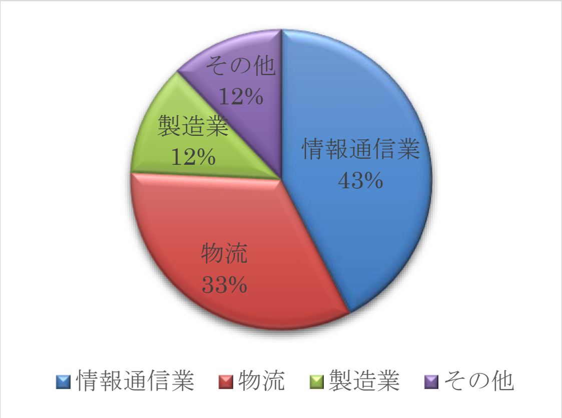


図１　業種別就職先

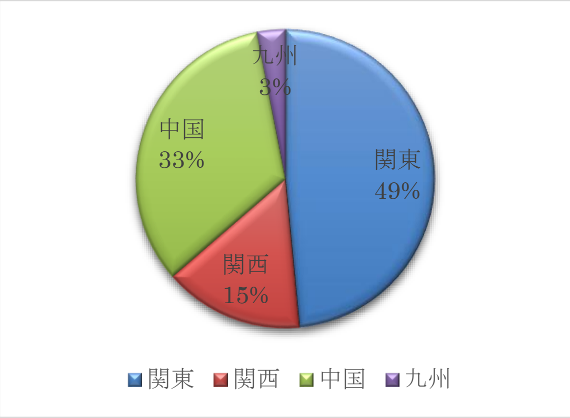


図２　地域別就職先

表１　進路一覧

就職	情　報	日通情報システム株式会社， NTT 東日本グループ会社＜エンジニア＞， 株式会社 NTT フィールドテクノ，NEC フィールディング株式会社，KDDI エンジニアリング株式会社，CTC テクノロジー株式会社，株式会社セゾン情報システムズ，ダックシステム株式会社，株式会社富士通エフサス，東芝 IT サービス株式会社，NEC ネッツエスアイ株式会社，株式会社 NTT ロジスコインフォメーションサービス，株式会社 USEN-NEXT HOLDINGS
	物　流	株式会社日陸，株式会社宇徳，ケイヒン株式会社，株式会社中四国丸和ロジスティクス，山九株式会社，川崎陸送株式会社，株式会社安川ロジステック，尾道諸品倉庫株式会社，中国通運株式会社
	その他	株式会社レニアス，出光興産株式会社，ダイキンエアテクノ株式会社，パナソニック株式会社（グローバル調達社），社会福祉法人三篠会，日本放送協会
進学		広島大学，神戸大学，豊橋技術科学大学，広島商船高専専攻科，広島デンタルアカデミー専門学校